

§15 同種粒子

[1] 次の Hamiltonian で記述される 2 粒子系を考える。

$$\hat{H} = \hat{h}_1 + \hat{h}_2, \quad \hat{h}_j \equiv -\frac{\hbar^2}{2m} \nabla_j^2 + U(\mathbf{r}_j).$$

- (a) \hat{P}_{12} を座標 1 と座標 2 の置換演算子とする。 \hat{P}_{12} と \hat{H} が可換であることを示せ。
- (b) \hat{P}_{12} の固有値を σ とする。 σ の可能な値をすべてあげよ。
- (c) 粒子のスピンと固有値 σ との関係、および Fermi 粒子・Bose 粒子の区別について、簡潔に説明せよ。
- (d) フェルミ粒子系における Pauli 原理について簡潔に説明せよ。
- (e) スピン s が $\frac{1}{2}$ の基底関数は、 z 軸を量子化軸にとるとき、 $|\uparrow\rangle \equiv |s_z = \frac{1}{2}\rangle$ および $|\downarrow\rangle \equiv |s_z = -\frac{1}{2}\rangle$ で与えられる。また、スピン s が $\frac{1}{2}$ の粒子が 2 個あるときの全スピン演算子は、 $\hat{s} \equiv \hat{s}_1 + \hat{s}_2$ である。 \hat{s}^2 と \hat{s}_z のすべての同時固有状態を $|\alpha\rangle_1 |\alpha'\rangle_2$ から構成せよ ($\alpha, \alpha' = \uparrow, \downarrow$)。
- (f) \hat{h} の二つの軌道固有関数を $\varphi_n(\mathbf{r})$ および $\varphi_{n'}(\mathbf{r})$ ($n \neq n'$) とする。この二つの軌道固有関数と (e) のスピン固有関数から、正しい置換対称性を持つ \hat{H} の固有関数を構成せよ。
- (g) (f) の問題で $n = n'$ の場合について、この軌道固有関数と (e) のスピン固有関数から、正しい置換対称性を持つ \hat{H} の固有関数を構成せよ。

[2] ハミルトニアン

$$\hat{h} = \frac{\hat{\mathbf{p}}^2}{2m} + V(\mathbf{r})$$

の固有状態 $\varphi_1(\mathbf{r})$ と $\varphi_2(\mathbf{r})$ で記述される 2 電子系を考察する。 $\varphi_1(\mathbf{r})$ と $\varphi_2(\mathbf{r})$ の固有値をそれぞれ ε_1 および ε_2 として以下の問いに答えよ。

- (a) 全スピン演算子は、 $\hat{s} \equiv \hat{s}_1 + \hat{s}_2$ である。 \hat{s}^2 と \hat{s}_z のすべての同時固有状態を $|\alpha\rangle_1 |\alpha'\rangle_2$ から構成せよ ($\alpha, \alpha' = \uparrow, \downarrow$)。
- (b) $\varphi_1(\mathbf{r})$ と $\varphi_2(\mathbf{r})$ 、および (a) のスピン固有関数から、正しい置換対称性を持つ 2 電子系の波動関数 $\psi(\mathbf{r}_1, \mathbf{r}_2) |s, s_z\rangle$ を構成せよ。
- (c) (b) の波動関数が $\hat{H} \equiv \hat{h}_1 + \hat{h}_2$ の固有関数になっていることを示し、その固有値を求めよ。
- (d) \hat{H} の他に、2 電子間に相互作用 $\hat{H}' \equiv U(|\mathbf{r}_1 - \mathbf{r}_2|)$ が働く場合を考える。 \hat{H}' を最低次の摂動論で扱い、(c) の固有状態のエネルギー変化を計算せよ。

(e) (d) の摂動の効果、次の演算子 \hat{H}_{ex} と等価であることを示せ。

$$\begin{aligned}\hat{H}_{\text{ex}} &\equiv A - \frac{J}{2}(1 + 4\hat{\mathbf{s}}_1 \cdot \hat{\mathbf{s}}_2), \\ A &\equiv \int d^3r_1 \int d^3r_2 U(|\mathbf{r}_1 - \mathbf{r}_2|) |\varphi_1(\mathbf{r}_1)|^2 |\varphi_2(\mathbf{r}_2)|^2 \quad : \text{クーロン積分}, \\ J &\equiv \int d^3r_1 \int d^3r_2 U(|\mathbf{r}_1 - \mathbf{r}_2|) \varphi_1^*(\mathbf{r}_1) \varphi_2^*(\mathbf{r}_2) \varphi_1(\mathbf{r}_2) \varphi_2(\mathbf{r}_1) \quad : \text{交換積分}.\end{aligned}$$

注： \hat{H}_{ex} のスピンの依存する部分を Heisenberg の交換相互作用と呼ぶ。

[3] 場の演算子 $\hat{\psi}(x)$ と $\hat{\psi}^\dagger(x)$ が次の交換関係を満足するものとする。

$$[\hat{\psi}(x), \hat{\psi}^\dagger(x')]_\sigma \equiv \hat{\psi}(x)\hat{\psi}^\dagger(x') - \sigma\hat{\psi}^\dagger(x')\hat{\psi}(x) = \delta(x - x'), \quad (1a)$$

$$[\hat{\psi}(x), \hat{\psi}(x')]_\sigma = [\hat{\psi}^\dagger(x), \hat{\psi}^\dagger(x')]_\sigma = 0, \quad (1b)$$

ここで、 $x \equiv (\mathbf{r}\alpha)$ は空間座標 \mathbf{r} とスピン座標 α を表し、また、 $\sigma \equiv \pm 1$ および $\delta(x - x') \equiv \delta(\mathbf{r} - \mathbf{r}')\delta_{\alpha\alpha'}$ である。この演算子が以下の等式を満たすことを示せ。

$$\begin{aligned}&\hat{\psi}(x'_1)\hat{\psi}^\dagger(x_1)\hat{\psi}^\dagger(x_2)\cdots\hat{\psi}^\dagger(x_N) \\ &= \delta(x'_1, x_1)\hat{\psi}^\dagger(x_2)\cdots\hat{\psi}^\dagger(x_N) + \sigma\delta(x'_1, x_2)\hat{\psi}^\dagger(x_1)\hat{\psi}^\dagger(x_3)\cdots\hat{\psi}^\dagger(x_N) + \cdots \\ &\quad + \sigma^{N-1}\delta(x'_1, x_N)\hat{\psi}^\dagger(x_1)\cdots\hat{\psi}^\dagger(x_{N-1}) + \sigma^N\hat{\psi}^\dagger(x_1)\hat{\psi}^\dagger(x_2)\cdots\hat{\psi}^\dagger(x_N)\hat{\psi}(x'_1).\end{aligned}$$

[4] (1) 式の交換関係を満たす場の演算子 $\hat{\psi}(x)$ と $\hat{\psi}^\dagger(x)$ を用いて、ブラケット・ベクトル $|0\rangle$ と $\langle 0|$ を、次の関係を満たす状態ベクトルとして導入する。

$$\hat{\psi}(x)|0\rangle = 0, \quad 0 = (\hat{\psi}(x)|0\rangle)^* = \langle 0|\hat{\psi}^\dagger(x), \quad \langle 0|0\rangle = 1. \quad (2)$$

さらに、上記のブラケット・ベクトルを用いて、状態ベクトル $|x_1x_2\cdots x_N\rangle$ と $\langle x_1x_2\cdots x_N|$ を次式で定義する。

$$|x_1x_2\cdots x_N\rangle \equiv \frac{1}{\sqrt{N!}}\hat{\psi}^\dagger(x_1)\hat{\psi}^\dagger(x_2)\cdots\hat{\psi}^\dagger(x_N)|0\rangle, \quad (3a)$$

$$\langle x_1x_2\cdots x_N| \equiv |x_1x_2\cdots x_N\rangle^* = \frac{1}{\sqrt{N!}}\langle 0|\hat{\psi}(x_N)\cdots\hat{\psi}(x_2)\hat{\psi}(x_1). \quad (3b)$$

これらの状態ベクトルは、次の規格直交関係を満たす。

$$\langle x'_1x'_2\cdots x'_M|x_1x_2\cdots x_N\rangle = \frac{\delta_{MN}}{N!} \sum_P \sigma^P \delta(x'_1, x_{p_1})\delta(x'_2, x_{p_2})\cdots\delta(x'_N, x_{p_N}). \quad (4)$$

(4) 式を $(M, N) = (3, 3)$ と $(2, 3)$ の場合に確かめよ。ただし σ^P は次式で定義されている。

$$\begin{cases} \sigma^P \equiv 1 & : \text{偶置換} \\ \sigma^P \equiv \sigma & : \text{奇置換} \end{cases} \quad (5)$$

[5] (3) 式の状態ベクトル $|x_1 x_2 \cdots x_N\rangle$ は、置換

$$\hat{P} \equiv \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & \cdots & N \\ p_1 & p_2 & p_3 & \cdots & p_N \end{pmatrix}$$

の固有状態であり、

$$\hat{P}|x_1 x_2 \cdots x_N\rangle = \sigma^P |x_1 x_2 \cdots x_N\rangle \quad (6)$$

を満たす。 $N = 3$ で \hat{P} が次式で与えられる場合について、このことを例証せよ。

$$\hat{P} \equiv \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 3 & 1 & 2 \end{pmatrix}.$$

[6] (3) 式の状態ベクトル $|x_1 x_2 \cdots x_N\rangle$ と、

$$\hat{P}\Psi(x_1, x_2, \cdots, x_N) = \sigma^P \Psi(x_1, x_2, \cdots, x_N) \quad (7)$$

を満たす波動関数 $\Psi(x_1, x_2, \cdots, x_N)$ を用いて、状態ベクトル $|\Psi\rangle$ を次式で定義する。

$$|\Psi\rangle \equiv \int dx_1 \int dx_2 \cdots \int dx_N |x_1 x_2 \cdots x_N\rangle \Psi(x_1, x_2, \cdots, x_N). \quad (8)$$

この状態ベクトルが次式を満たすことを示せ。

$$\hat{\psi}(x_1)|\Psi\rangle = N \int dx'_2 \cdots \int dx'_N |x_1 x'_2 \cdots x'_N\rangle \Psi(x_1, x'_2, \cdots, x'_N), \quad (9a)$$

$$\hat{\psi}(x_1)\hat{\psi}(x_2)|\Psi\rangle = N(N-1) \int dx'_3 \cdots \int dx'_N |x_1 x_2 x'_3 \cdots x'_N\rangle \Psi(x_1, x_2, x'_3, \cdots, x'_N). \quad (9b)$$

[7] 同種多粒子系の 1 粒子演算子 $\hat{H}^{(1)}$ と 2 粒子演算子 $\hat{H}^{(2)}$ は、一般に次の形を持つ。

$$\hat{H}^{(1)} \equiv \sum_{j=1}^N \hat{h}_j^{(1)}, \quad \hat{H}^{(2)} \equiv \sum_{i<j} \hat{h}_{ij}^{(2)}.$$

これらの演算子の $\Psi_{\nu'}^*(x_1, x_2, \cdots, x_N)$ と $\Psi_{\nu}(x_1, x_2, \cdots, x_N)$ の間の行列要素は、(8) 式の状態ベクトルを用いて以下のように表現できる。

$$\begin{aligned} & \int dx_1 \cdots \int dx_N \Psi_{\nu'}^*(x_1, \cdots, x_N) \hat{H}^{(1)} \Psi_{\nu}(x_1, \cdots, x_N) \\ &= \int dx_1 \langle \Psi_{\nu'} | \hat{\psi}^\dagger(x_1) \hat{h}_1^{(1)} \hat{\psi}(x_1) | \Psi_{\nu} \rangle, \end{aligned} \quad (10a)$$

$$\begin{aligned} & \int dx_1 \cdots \int dx_N \Psi_{\nu'}^*(x_1, \cdots, x_N) \hat{H}^{(2)} \Psi_{\nu}(x_1, \cdots, x_N) \\ &= \frac{1}{2} \int dx_1 \int dx_2 \langle \Psi_{\nu'} | \hat{\psi}^\dagger(x_1) \hat{\psi}^\dagger(x_2) \hat{h}_{12}^{(2)} \hat{\psi}(x_2) \hat{\psi}(x_1) | \Psi_{\nu} \rangle. \end{aligned} \quad (10b)$$

(4), (6), (7), (9) 式を用いて (10) 式を証明せよ。

[8] 演算子 \hat{c} と \hat{c}^\dagger がボーズ粒子の交換関係

$$[\hat{c}, \hat{c}^\dagger]_+ \equiv \hat{c}\hat{c}^\dagger - \hat{c}^\dagger\hat{c} = 1, \quad [\hat{c}, \hat{c}]_+ = [\hat{c}^\dagger, \hat{c}^\dagger]_+ = 0,$$

を満たすものとする。また状態 $|n\rangle$ ($n = 0, 1, 2, \dots$) を

$$\hat{c}|0\rangle = 0, \quad |n\rangle \equiv \frac{(\hat{c}^\dagger)^n}{\sqrt{n!}}|0\rangle,$$

で定義する。

(a) $[\hat{c}, (\hat{c}^\dagger)^n] = n(\hat{c}^\dagger)^{n-1}$ を証明せよ。

(b) 演算子 $\hat{n} \equiv \hat{c}^\dagger\hat{c}$ を定義する。(a)の結果を用いて $\hat{n}|n\rangle = n|n\rangle$ を示せ。

[9] 演算子 \hat{c} と \hat{c}^\dagger がフェルミ粒子の交換関係

$$[\hat{c}, \hat{c}^\dagger]_- \equiv \hat{c}\hat{c}^\dagger + \hat{c}^\dagger\hat{c} = 1, \quad [\hat{c}, \hat{c}]_- = [\hat{c}^\dagger, \hat{c}^\dagger]_- = 0,$$

を満たすものとする。また状態 $|n\rangle$ ($n = 0, 1, 2, \dots$) を

$$\hat{c}|0\rangle = 0, \quad |n\rangle \equiv \frac{(\hat{c}^\dagger)^n}{\sqrt{n!}}|0\rangle,$$

で定義する。

(a) $(\hat{c}^\dagger)^2 = 0$ を証明せよ。

(b) $n \geq 2$ に対して $(\hat{c}^\dagger)^n = 0$ を証明せよ。

(c) (b)の結果より、状態 $|n\rangle$ は $n = 0, 1$ のみに対して有限であることがわかる。演算子 $\hat{n} \equiv \hat{c}^\dagger\hat{c}$ を定義する。 $n = 0, 1$ に対して $\hat{n}|n\rangle = n|n\rangle$ を示せ。